

# 埋文

## とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2016.3.20

VOL

134



この土器を見ると無意識に擬人化してしまうのは、胸元？にある6つのボタン状の装飾のせいでしょうか。下半分がシュッとスマートになっているところも、何か洗練された感じがします。ダブルブレストのジャケットをきちんと着て、すまし顔の紳士のイメージ。みなさんはこの壺、何に見えますか？

弥生土器 壺 下老子笹川遺跡出土

とっておき埋文講座 ● 企画展「縄文時代のとやま」

富山の縄文ムラ

センターフラッシュ ● 催しガイド2016

埋文あらかると ● ボランティア活動を振り返って

行ってこられよ ● 伏木北前船資料館

富山県埋蔵文化財センター

# 企画展「縄文時代のとやま」展を振り返って

とっておき埋文講座①

## はじめに

縄文時代は約1万年もの間、狩猟・漁猟・採集をなりわいとして、自然と共生する生活をおくっていた時代です。

この時代の遺跡は富山県内でも数多く見つかっており、近年は能越自動車道や北陸新幹線の建設に伴う発掘調査で、新たな発見が相次ぎました。とりわけ縄文時代前期の埋葬人骨が91体も見つかった富山市小竹貝塚や、東日本最大級の環状集落の一端が見つかった魚津市早月上野遺跡など全国的にも大きく注目を集めました。

今回の企画展では、こうした土・石・木・骨などの自然の材料から作られた様々な道具をとおして、縄文の人々が自然を巧みに利用し、自然と共に生きた姿を探ることとしました。

## 展示の構成

展示にあたってその副題を一縄文集落にみる生活となりわいとして、「自然の恵み」「縄文の匠」「自然への祈り」といった三つのコーナーを設けて遺物やパネルの展示を試みました。

「自然の恵み」は、狩猟・採集生活での食料対象である動植物と、その獲得・調理方法を紹介するもので、「山の恵み・海の恵み」、「狩る」「漁る(すなどる)」「採る」「食べる」「住まう」など、さらに細かなテーマに分けて、氷見市上久津呂中屋遺跡出土の魚骨・貝類・動物骨や丸木舟、小竹貝塚出土の釣針やヤスなどの骨角器といった遺物を展示しました。

また、「縄文の匠」では、富山の縄文人がその生活の中で作り出した特徴的な資料を展示するもので、「土



器をつくる」「石斧をつくる」「玉をつくる」「木器をつくる」に分けて展示しました。

「土器をつくる」では、縄文時代草創期から早期・前期・中期・後期・晩期と土器を古い順に一堂に会して並べ、その形や文様の変化・風合いの違いを肌で感じとってもらおうことをねらいとしました。

また、「石斧をつくる」では、磨製石斧の製作工程を実際に出土したものを工程ごとに並べてを見てもらうとともに石材の違いによって、富



山県下には蛇紋岩系と硬質砂岩系2つの系統が存在することを紹介しました。

三つ目の「自然への祈り」は、縄文人が自然と共生する中で、自然への畏怖の念が生み出した資料を「祈る」と「装う」の二つにまとめ展示しました。

「祈る」は、まさに精霊への祈りで、富山市長山遺跡出土の土偶や早月上野遺跡出土の石棒などを中心に、その祈りについて紹介しました。また、「装う」では、たんなるオシャレではなく、縄文時代の呪術にまつわる身を飾る道具の一端を小竹貝塚出土の骨角製の髪飾りや垂れ飾り、氷見市朝日貝塚出土の貝輪などで見ていただきました。

### 展示遺物を振り返って

今回の企画展で取り扱った遺物は、38遺跡約350点です。そのいずれも話題性のあるものばかりですが、特にとりあげれば次のようになります。

### 県内最古の土器

土器は、立山町白岩尾掛遺跡の表採資料です。爪形文土器、条痕文土器、押圧縄文土器があり、爪形文土器には当時期の特徴的な「八の字」の爪形が認められるものがありま

す。

土器の年代は、今から約1万1千年～1万2千年前の縄文時代草創期のものと考えられています。今のところ県内最古の土器となり、遺跡は縄文時代草創期の明確な土器が確認される県内唯一の遺跡となります。

### 縄文時代のヒット商品

今回展示した朝日町境A遺跡出土の磨製石斧ですが、遺跡からは、数万点にのぼる蛇紋岩製の磨製石斧の完成品・未成品・原石やその石製工具類が見つかっています。

自家消費をはるかに超えることから、石材や製品の広範な流通が考えられています。研究者の話によれば東は青森、西は和歌山あたりまで、蛇紋岩製の磨製石斧の出土が認められるとのことでした。

蛇紋岩の産地にかかる富山県東部や新潟県西部の遺跡から各地へ広まったと考えられています。同様のことは、展示資料のヒスイの原石や製品の流通にも当てはまります。遠くは青森や九州までも広がっていたともいわれています。



### 連綿と続く呪術の世界

呪術にまつわる道具と言えばまずは土偶となります。県内の出土点数は、500点以上を数えると思われるます。

数量的には全国的に見て、さほどではありませんが、各々の所属に特徴があります。早期末～前期初頭の射水市南太閤山I遺跡の土偶を初現に晩期までの各時期にその出土が認められます。ほぼ縄文時代の全時期にわたり土偶が見られる地域は他にはあまり見られません。縄文時代のとやまの特徴と言えるでしょう。

### おわりに

今回の展示は、「縄文時代のとやま」という漠然としたテーマでしたが、展示をとおして富山の縄文人に想いをはせ、「ふるさと富山」の歴史や文化の魅力に親しんでいただければ幸いです。

(神保 孝造)



# 富山の縄文ムラ

とっておき埋文講座②

富山考古学会 会長 西井 龍儀

縄文時代の始まりは今から1万5千年前にさかのぼります。弥生時代に移行するまで、縄文時代は1万年を超える長さがあります。その間に遺された富山県の縄文遺跡数は1,500を超えているといわれています。これにはわずかな石器や土器採集によるものから、圃場整備や、高速道路や新幹線の建設などに伴う大規模な発掘調査によるものまでさまざまですが、それでも発掘された部分は遺跡のほんの一部にすぎず、多くはまだ地中に埋蔵しているといっただいでしょう。

発掘された縄文土器の造形や模様、石器製作の技術にはすばらしいものがあります。また、生活の証となる住居跡や墓地のあり方から、縄文人の意図や精神性を反映した縄文ムラを垣間見ることができます。ここでは、県下の主要な遺跡を取り上げて、そこから見るとやまの縄文ムラの姿を紹介したいと思います。

## 桜町遺跡

小矢部市にある桜町遺跡は、子撫川と小矢部川にはさまれた谷筋にあり、高床式倉庫の部材や、用途不明のY字形の木製品が出土しました。また、直径6mほどの円周状に柱が配された「環状木柱列」と呼ばれる遺構が発見されています。木柱はクリ材を縦に割ったものが使われ、割られた面が円周の外側に配されています。これは、縄文時代の晩期においての、何らかの祭祀のためのモニュメントという見方がなされています。環状木柱列はこのほかにも、金沢市のチカモリ遺跡、能登町の真脇遺跡などで確認されています。

## 井口遺跡

井口遺跡は縄文時代後期から晩期に営まれた遺跡です。ここでも、環状木柱列の遺構が発見されています。井口遺跡を復元したものが【図1】です。台地の中央に環状木柱列があり、台地の縁に竪穴住居が建てられています。

そして集落を囲むようにして繁るクリの木の間があったと考えられます。

井口遺跡の出土品では、イノシシ形注口土器が知られています。この土器が作られたのは井口遺跡のもっとも古い段階の後期後葉で、縄文人の素晴らしい表現力を今に伝えています。

## 朝日貝塚

朝日貝塚は、大正7年7月に寺院の建設途中に発見されました。大正13年の調査では日本で初めて2基の炉跡のある住居跡が発見されました。朝日貝塚からは、バスケット形土器や国指定重要文化財になっているヒスイの大珠が見つかっています。これは長さが約16cmにもなる大変大きなもので、長らく日本で最大の大珠であると評価されていました。

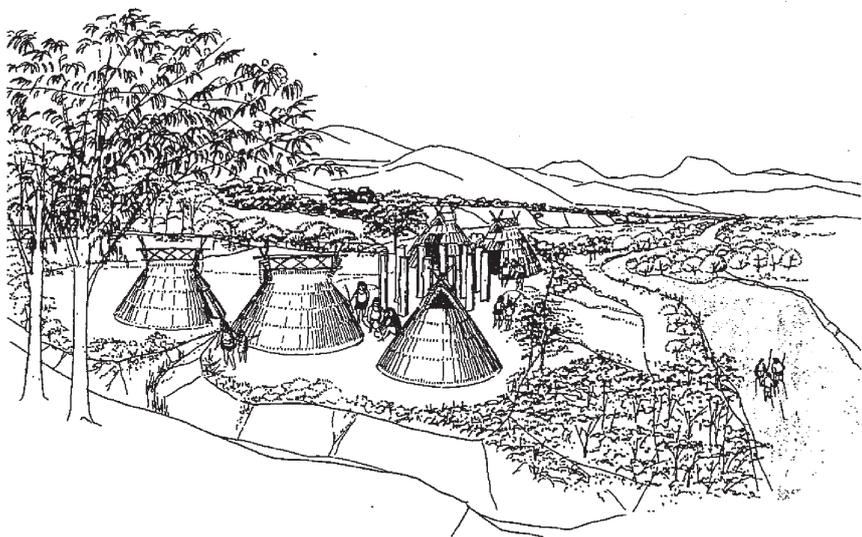
## 大境洞窟

大境洞窟もまた、大正7年に東京帝国大学により調査されました。日本初の洞窟遺跡の発掘調査です。何度か落盤があり、時代ごとの地層が発生しました。このことにより、縄文土器が弥生土器より古いことが初めて確認されました。

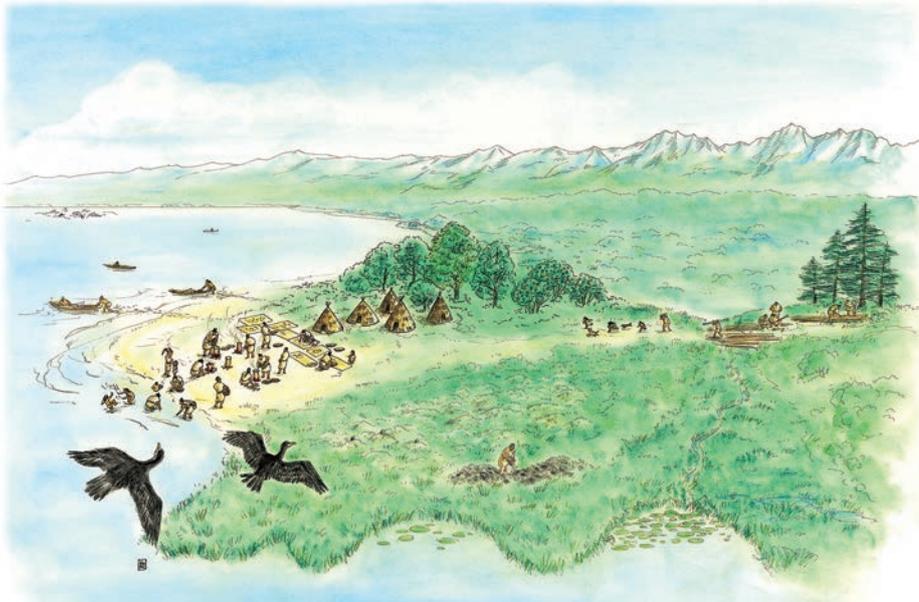
## 小竹貝塚

小竹貝塚は、現在の標高でも3mと、とても低いところにある遺跡です。ここで注目されるのは、91体の人骨が発見されたことです。これらの人骨の状況からは、屈葬、伸展葬、土器棺葬など、様々な埋葬の形態が確認されました。また、石斧や玉類など、副葬品も多数遺されていました。

貝層の中からは、釣り針や髪針など



【図1】井口遺跡縄文ムラ復元図 【井口村史】1992



【図2】小竹貝塚縄文ムラ復元図 早川和子原画

の骨角器も多数発見されました。

小竹縄文ムラの復元図が【図2】です。左側に広がるのは放生津潟です。浜辺では人々がシジミを採り、土器で煮てゴザに広げて干しています。右側にある木材の加工場では丸木舟を作っています。海にはその丸木舟に乗り、イルカ漁に出る人々の姿も表現されています。

### 北代遺跡

北代遺跡では、竪穴住居跡が78棟、高床建物跡が4棟見つかっています。この遺跡の竪穴住居で特徴的なのは、屋根に葺き土があるということです。北代縄文集落は、住居が円周状に配された環状集落であったと推定されています。高床建物は集落の中心にあり、柱穴部分からはクジラの骨が見つかっています。こうしたことから、この建物は何らかの祭祀に使われるものであったと考えられています。

### 平岡遺跡

平岡遺跡は、呉羽丘陵の南西部にある遺跡です。ここは土器や石鏃、石匙、など、縄文時代の遺物がよく出土する場所として知られていましたが、発掘調査により、14棟の竪穴住居跡や、70基の墓の遺構などが発見され

ました。

この遺跡もまた、墓の周りを住居が取り囲む環状集落であったと考えられています。縄文時代前期という、富山県内でも古い時代の集落跡として貴重なものです。

### 早月上野遺跡

早月上野遺跡は、高速道路の整備や北陸新幹線建設に伴って発掘調査が行われた、縄文時代中期の巨大な集落跡です。【図3】の復元図のように、集落の中心には直径30mの円形に木柱列が立ち、その周囲には掘立柱建物が配されていたと想定されます。その外側には墓域があり、さらにその外側には竪穴住居が建てられていました。集落全体の直径は280mと、日本海側で最大の規模であると評価されています。



【図3】早月上野遺跡縄文ムラ復元図

す。

多数発見された竪穴住居跡は全てが同時期にあったものではなく、少しずつ場所を変えながら点在していましたが、中心にある木柱列は場所を変えることなく、新しい時期まで同じ穴に柱を入れ替えながら存在したと考えられています。

掘立柱建物跡は墓域の中で小さな広場を囲むように、円の中心に向けて建てられています。そのため、住居として使われたのではなく、祭祀に使われたものと思われます。

### 遺跡から見える縄文ムラ

これらの遺跡の調査結果から、とやまの縄文時代の人々は、住居を転々とするのではなく、基本的には長期間にわたり定住していたことが分かります。

建造物としては、竪穴住居と掘立柱建物があり、竪穴住居は主に住居として建てられ、掘立柱建物は祭祀の場として使われたと考えられています。多くの集落では早月上野遺跡などに見られるように、広場を中心とした環状集落が形成されました。広場の中心部分には、環状木柱列のようなモニュメントがあり、墓が作られました。

縄文人の暮らしは対等な共同生活でした。環状集落という形態はそれを象徴し、祖先を敬い、連帯を重んじた姿を形にしたものといえるでしょう。

## 【展示室】

### 企画展

#### 「古代へのとびら2016」

～なぞ解き！とやまの考古学～

平成28年4月13日(水)～  
9月4日(日)

旧石器時代から近世までのとやまの人々の姿を、富山県内で発掘された出土品をとおして紹介します。展示室に隠されたキーワードを探し、パズルを解きながら、楽しくとやまの考古学が学べます。



注口土器【井口遺跡】

### 特別展

#### 「霊峰立山—立山信仰を探る—」

平成28年9月16日(金)～  
平成29年3月30日(木)

県が平成22～26年度に実施した「立山・黒部山岳遺跡調査」の成果を、立山と同じく日本三霊山の白山、富士山の山岳遺跡とともに紹介します。また、富山県内の山岳遺跡関連資料の展示も行います。



剱岳での調査

## 【収蔵展示室】

### 常設展

#### 「小竹貝塚—縄文人のなりわい—」

平成28年4月13日(水)～  
平成29年4月6日(木)

小竹貝塚出土の縄文人骨、縄文土器、石器、骨角器など多彩な出土品を紹介します。  
(随時、展示内容を更新予定)



骨角器【小竹貝塚】

### ■ 県民考古学講座

考古学の入門編から近年の発掘調査成果まで、当センター職員を中心に著名な講師も交え、わかりやすく解説する講座です。

平成28年度は、6月より全7回の開催を予定しています。

### ■ 冬の考古体験教室

古代のものづくりを体験する教室を、今冬、新たに開きます。

平成29年1月21日(土)、2月18日(土)

対象：一般

### ■ 出張埋文センター

当センター職員が県内の遺物や古代体験キットを持って地域に出向きます。地域の遺跡からの出土品に触れながら話を聞いたり、土器づくりや火起こしなどの体験をしたりすることができます。

対象：一般県民

### ■ ふるさと考古学教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。勾玉づくりやガラス玉づくりなどの古代体験を通して、先人の知恵や技を習得します。

・開催日 7月26日(火)～28日(木)、30日(土)  
8月1日(月)～4日(木)、6日(土)  
8日(月)～10日(水)

・対象 小学校4・5・6年生とその保護者

### ■ こども考古学クラブ

とやまの古代について学ぶ講座です。

・開催日 8月17日(水)、18日(木)、20日(土)、  
21日(日)

・対象 小学生

### ■ 夏休みの自由研究アドバイスの日

7月28日(木)、8月9日(火)、20日(土)

# 埋文 あらかると

## ボランティア活動を振り返って

### ○ はじめに

当センターにおけるボランティア活動は、平成15年から始まり、今年で12年目となります。活動の幅も年々広まっています。従来の活動に加え、小中学校への出前授業やミニ考古学博物館へのサポートも行うようになりました。

以下、今年度のボランティア活動の取り組みについて、紹介します。

### ○ ボランティア展示学習会・研修会

当センターでは企画展等の開催に合わせて、年4回展示学習会を行っています。その目的は、ボランティアが来館者へ展示説明するための知識や技能を身につけることです。

今年度、全国巡回展「発掘された日本列島展2015」展を開催しました。この展示解説のために、全国から集められた土器の特徴や用途を調べたり、富山県では出土されていない埴輪について、どのように説明するかなど、真剣に学ぶボランティアが多数見られました。その成果もあり、来館者の評判は上々でした。



陶棺について学習する



粘板岩を割る

研修会では、こども考古学クラブで新たに実施した「石包丁づくり」を行いました。錐で粘板岩に穴を開けた後、半円型になるよう石で削っていきますが、粘板岩は非常に硬く、削るのに苦労します。しかし、削っていく最中、叩き割ることで、石が崩れ、うまく成形できることに気付いた人がいまし

た。この人は、割って成形するポイントをどのように子供たちに伝えればよいか、考えていました。

### ○ 展示説明

展示説明は来館された方が展示をより深く理解できるよう行うものです。一方で、展示学習会や研修会で学んだボランティアが成果を発表する場でもあります。来館者に説明するときは、声のトーンや大きさ、難しい専門用語を使わないことなどを心がけるとともに、パンフレットや資料を活用し、視覚的にも分かりやすいガイドになるよう工夫しています。

ある時、外国人が来館し、ボランティアが展示説明に大変苦労していました。言葉が通じず、身振り、手振りのジェスチャーでようやく外国人も分かってくれたようでした。



年表をもとに説明する

### ○ 体験活動

ボランティアのもう1つの主な活動は、火起こし体験やまが玉づくりなど、体験活動を希望する来館者のサポートです。

体験活動の希望者は小学生が多いので、まず、小さい子どもに合わせ、やり方を説明します。一人で行うことが難しい活動では、アドバイスやサポートも行います。

例えば、まが玉づくりでは竹の錐を使って、石に穴をあけます。しかし、竹錐で貫通させることは、低学年の小学生にとっては難しいことです。

このような時には、鉄錐で石に少し穴を開けて、それをきっかけに竹錐で穴を開けさせるなどのサポートをします。

また、夏休みの考古体験教室では、ガラス玉づくりや鋳物づくり、藍染めエコバッグづくりのサポートもしました。

「孫のような子どもと一緒に活動できることは、ボランティアとしての喜びの一つとなっている。」という声も聞かれます。



ガラス玉づくりのサポートをする

### ○ 出前授業・ミニ考古学博物館

当センターでは、職員が出土品を持って地域の学校などに出向く出前授業やミニ考古学博物館を実施しています。

これらの活動は祝祭日に行ったり、多くの参加者をサポートする必要があるため、センター職員だけでは対応しきれない場合があります。そこで、ボランティアにサポートしてもらいます。

今年度は学校や公民館などに出向いて体験活動をサポートする機会が多くありました。センター以外の場所での活動はとて新鮮なようです。ボランティアは訪問先の地域住民や学校の子どもたちと歴史や考古学の話で盛り上がっていました。



幼児の穴あけをサポートする

### ○ 最後に

「火起こしでうまく火が起きないなど、結果が出せないことも多々あり、指導力のなさを感じる。」「常に喜びに溢れた笑顔に会うために日々苦しい項目の研修に努めている。」「これらはボランティアの感想の一部です。ボランティア活動は、展示説明や体験学習などのサポートをとおして、ふるさとの歴史や地域の埋蔵文化財をPRする役割も担っています。今後も来館者の方に埋蔵文化財や当センターを身近に感じてもらえるよう、日々研鑽に励んでいきます。」

(松本 真吾)

# 行ってこられよ —《64》

今度の休日、ちょっと出かけてみませんか。



## 伏木北前船資料館

高岡市伏木古国府

伏木は小矢部川河口にあり、古代より存在する港町です。18世紀には北前船の寄港地として栄えました。

伏木北前船資料館は、江戸時代より廻船問屋を営んだ旧秋元家住宅で、明治20年代に建てられたものとされています。平成10年に高岡市指定文化財に指定されています。はじめは船乗りたちの泊まる宿として使われたとのことで、内装の所々に宿泊所としての名残りが見られます。

家持、義経、北前船。そして明治の遺構も数多く残り、歴史が幾重にも折り重なる伏木の地を巡る旅はいかがでしょう。5月には6基の山車が激しくぶつかり合うことで知られる「伏木曳山祭」も行われるのでさらにおすすめです。



- バスを利用する場合  
高岡駅よりバス伏木經由氷見行き伏木駅前下車徒歩10分
- 電車を利用する場合  
JR氷見線：伏木駅下車徒歩10分
- 車を利用する場合  
能越自動車道：高岡北ICより車で15分  
北陸自動車道：小杉IC・砺波ICより車で40分



### 編集後記

現在、4月からの展示準備を行っています。考古学に初めてふれる方にも楽しんでいただける内容を企画しています。春の埋文にぜひいらしてください。(担当 坪坂)

### 富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」vol.134

平成28年3月20日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814  
URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/index.html>

